

始めてみませんか? 「書き写し学習」卓上四季ノート

「卓上四季ノート」とは? 北海道新聞の1面に掲載されているコラム「卓上四季」を書き写すノートです。分からない言葉や漢字、天気や気になるニュースも記入できます



- 卓上四季ノートの効果
 - ☆認知症予防のトレーニングに
 - ☆漢字や言葉を思い出せます
 - ☆毎日の社会情勢や出来事がわかる
 - ☆文章を読み取る能力が身に付く
- 1冊162円(税込) ※1冊で約1ヶ月使用できます。
ご希望の方はお気軽に販売所までお電話ください。



短い夏も終わりを告げ、秋の足音が聞こえてくるこの時期、毎年思う事があります。

それは、夏の高校野球「甲子園大会」の思い出です。兵庫出身の私にとって甲子園球場(兵庫県西宮市)は地元であり、学生時分に野球観戦に何度も足を運んだ場所です。

私の思い出について正確に言いますと、多くの素晴らしい試合がありました。それが、それよりも、猛烈な蒸し暑さと日差しが強さ、そして、「かち割り」の旨さ! これが一番です。本当にのどが渇いているときはジュースやビールより冷たい水が本当に旨い。

私だけかもしれませんが、ジュースなどであれば飲んだ後にのどに甘みが残り、すっきりしない感じがします。その点、冷たい水は、何も雑味がなくスツと体の中に入ってくる感じがします。

観戦中の私にとって最高級の飲み物であった印象があり、この時期になる



「夏の思い出」
新得町立屈足中学校 校長 山下 英男



となぜか思い出してしまいます。

「かち割り」とは、金魚すくいので金魚の持ち帰りに使う上部にひものついたビニールの袋に、水を詰め込んでストローを差しただけのものです。熱した頭や首筋、腕にあてて体を冷やし、溶け出した水を飲むのです。冷たい水がからだに染みこんでいく! 私は、これがたまらなかつた。当時、一袋100円くらいだったと記憶していますが、30年以上も前の記憶なので定かではありません。

今は衛生的になり、パック詰めされた袋にストローを差し込んで水を飲むようになってきているようです。また、今はペットボトル飲料を凍らせた商品が出てきて、売り上げが伸び悩んでいるという話も聞かれています。

かち割りで体を冷やしたり、冷たい水を飲んだりしては、思えば、ちよっとさみしい気持ちがありますが、時代の流れなのでしょう。

本

無送料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。

今読みたい話題作! 欲しい本をお取り寄せ!

せ!
気軽にお問い合わせください。
通販は送料が掛かりますが当販売所は無料です。
※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

「いちぢり屈足駐在所」



鈴木進司 巡査部長

「防犯イベントの実施」

「防犯教室」
9月6日(木) 午前10時から11時30分 さわやかホール

内容 本部の警察官がピッキングによる錠の解錠、ガラス割り等を実演。防犯対策の講習などが実施されます。



「安心・安全 屈足防犯の集い」
9月15日(土) 午後14時から午後16時 屈足総合会館

第1部 腹話術師による防犯教室
前半 子供用防犯教室。後半 大入用防犯教室

第2部 警察音楽隊による演奏、カラーガード隊その他、白バイ、パトカーの展示・撮影会

さわやかホールに交通事故現場写真などのパネル展示

○参加者へのおみやぎ無料配布の実施



道新八月号
ポケットブック
の御案内です。



▼ポケットブック8月号「サカナと旬の一品」
「サカナと旬の一品」で、まごわやさしい「献立」
健康はバランスの良い食事から。「まごわやさしい」は、そのために覚えておきたいキーワードです。「ま」は豆、「ご」はごまというように、この7文字は7分野の食材の頭文字を並べたもの。「さ」は魚をはじめとする魚介類のため、本誌ではサカナ料理と旬の一品で、「まごわやさしい」を網羅できる献立を紹介しています。ごまがクッキーのページは「白黒重」を楽しめます。配布済み。

ポケットブック次号予告
「間をくぐりしつかり
おいしい 麵つゆレシピ」

連続小説

電池のきれた兜虫

赤池 武臣

何年振りかで聞く「ママ」という言葉だった。普段武彦は、何を頼むにしても「ねえ」か「これ」で間に合わせ、それで大体の意味は通じるし、事足りていた。

典子は、電気に打たれたように布団から跳ね起きると、武彦の顔を覗きこんだ。信じられないという顔付きだった。そして、もう一度といたげな表情で、武彦を見つめた。

「ママ。この兜虫、電池が切れたよ。全然動かなくなっちゃったよ。ほら・・・」 青白い頬に垂れ下がったほつれ毛を両手でかき上げた典子は、暫く怪訝(げげん) そうな顔をしていたが、やがて、微笑みながら、しっかりと目で武彦の手の兜虫を見た。

最初、典子も武彦が言うように、玩具の兜虫だと思っていた。

そう思って手を伸ばした。

が、自分の手につまみ上げて載せた途端、いま手の中に冷たくなり、動かない兜虫は、紛れもなく、本物の兜虫ではないか。

典子の背中に、突きぬけるような冷たいものが、ざわざわと走った。(二)これは、死んだ本物の兜虫だ。それも、武彦は確かに、いま、電池が切れたと言った。たしかに、そう言った。

喰い入るように、典子は武彦の顔を見た。しかし、両手を差し出したまま、じつと典子の目をみつめている武彦の目に、嘘はなかった。電池が切れ、動かなくなってしまった哀しみだけが、顔中にただよっていた。

(この子は、本当に電池が切れていると思っっている。そう思っている)

典子から笑顔が消え、急速に、得も知れない恐怖が身体中を駆けめぐった。もう典子に、この兜虫について説明する気力も、怒る気力もなかった。ただ、いつまでたっても止まらない身体の震えと、あふれる涙を必死にこらえるのが精一ぱいだった。

この兜虫は一週間前、酔った店の客が、ふざけながら、典子のスカートの中に押し込んだのを、いったんは怒って投げ捨てたのだったが、思いなおして拾い、いつも持ち歩くバッグの中に入れて、その夜、武彦に土産だといって渡したものであった。

ねっとわーく屈足



ねっとわーく屈足電子版
ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで動画も閲覧できます。
ツイッターも屈足の話一杯毎日更新!

じじ-akira1942

